

巻 頭 言

鳥取市立病院 病院長 大石 正博

処暑の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。私がこの原稿を書いているのは9月上旬ですが、記録的な猛暑が続いており、日本もまるで亜熱帯地域のような気候です。8月にはコロナウイルスの第11波が到来しましたが、感染症の分類が5類に移行したことで、専門病棟ではなく一般病棟での対応が主となっています。COVID-19パンデミックは100年に一度の出来事と言われていますが、この4年間で私たちは多くの経験を積み、多くのことを学びました。その結果、一般病棟の管理においても大きなクラスターを発生させることなく、職員一同が冷静に対応できています。そのような状況の中、「鳥取市立病院業績集第30巻」を無事に刊行することができました。

まず初めに、多くの業績を達成してくださったスタッフ一人ひとりの素晴らしい努力と研鑽に深く敬意を表します。皆様の献身的な努力と情熱が、私たちの医療チームを一層強化し、患者さんに質の高い医療を提供する原動力となっています。この業績集を手にとっていただいた皆様には、困難な状況の中で当院が日々成長し、進化している様子を感じ取っていただければ幸いです。

私たちは「New normal」というアフターコロナの時代に突入しました。医療機関を取り巻く環境も大きく変わりつつあります。患者さんの行動変容も影響し、多くの医療機関で外来や入院患者数が減少しているようです。また、施設での看取りが増えてきたことも見受けられます。2023年の人口動態統計によると、死因の順位は1位が「がん」、2位が「心疾患」、3位が「老衰」、4位が「脳血管疾患」となっています。老衰が3位に上がっているのは、誤嚥性肺炎を繰り返しながら亡くなった患者さんが「肺炎」ではなく「老衰」として扱われるケースが増えたためです。個人の意思やQOL（生活の質）を重視した治療・ケアが行われる中で、患者さんの背景を考慮し、積極的な治療を行わない場合も多くなっています。

医療を取り巻く環境が大きく変化する中で、私たちは変化に積極的に取り組み、より効果的な医療サービスを提供する方法を模索し続ける必要があります。スタッフ一同は引き続き、協力し合い、励まし合いながら、より良い医療の実現に努め、地域社会に貢献していく所存です。今後ともご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

令和6年9月

【病院理念】

1. 信頼される病院
2. 心温まる病院
3. 楽しく働ける病院

【基本方針】

地域の中核的病院として、他の医療機関との連携、協調のもと、二次医療を中心に頻度の高い三次医療まで担当するなど、地域における医療福祉の向上に努め、地域住民の命と健康を守るため、医療需要の増大と多様化に対応できる病院づくりを目指す。